

7) 県内の特徴的な動き(平成24年度)

(1) 平成24年度全国和牛能力共進会における本県の成績

平成24年10月に長崎県で開催された全国和牛能力共進会には、本県は初めて9部門すべてに出品し、和牛関係者の長年の努力が実り、過去最高となる4点の優等賞と、本県では初となる2点の特別賞を受賞しました。

また、肉牛の部に出品した3組すべてが上位入賞したのは、出品38道府県の中で本県を含む4県だけでした。

区分	名号	父牛名号	出品者住所	出品者氏名	備考		
種牛の部 第4区	第3かつえいこう	第2平茂勝	田子町	尾形喜悦	優等6席 13組中6位 特別賞 (乳徴賞)		
	第3ふくみつ						
	第2かつよし						
	ふくてる						
肉牛の部 第8区	広美	安平勝2	東通村	東通公社	優等7席 19組中7位 特別賞 (歩留賞)		
	友勝		十和田市	折田勝男			
	常安		横浜町	太田岩男			
	第9区	勝国	第2花国	十和田市	折田勝男	優等17席 76頭中17位	
		—		—	—	—	優等26席 76頭中26位
		第2安国		東通村	橋本勝春	—	—

優等賞を獲得した本県出品牛一覧



審査風景

(2) 獣医師確保対策の実施

県では、平成24年1月に「青森県獣医師職員確保プラン」を策定し、将来にわたり県獣医師職員を安定的に確保するため、インターンシップの開催や中学・高校への出前講座、獣医系大学生への修学資金の給付などの確保対策に取り組んでいます。



獣医系大学生への職務紹介

(3) 飼料用米を有効活用するための新たな取組

十和田市の肉用牛農家では、コスト低減のため、乾燥が不要で屋外保管が可能な稲ソフトグレインサイレージ(稲SGS)の生産に取り組んでいます。稲SGSは、飼料用米を粉砕・発酵させるため消化性や嗜好性に優れるなど、飼料用米を有効活用するための新たな取組として注目されています。



稲SGS



給与の様子

(4) キャトルセンター整備による肉用牛増頭の取組

三八地域では、五戸町営ブドロク放牧場を核とした肉用牛の地域一貫生産を推進するため、畜産担い手育成総合整備事業を活用して草地造成や周年預託施設（キャトルセンター）、堆肥舎等を新たに整備し“あおり倉石牛”のブランド力の強化、生産拡大に取り組んでいます。



周年預託施設



堆肥舎

(5) 飼料用稲を活用した粗飼料の増産推進

西北地域では、飼料自給率の向上や水田地帯という地域の利点を活かし畜産経営の確立のため、飼料用稲を活用した自給飼料の増産に取り組んでいます。

その一環として、水田に牛をそのまま放牧する「立毛放牧」の実証展示ほ場をつがる市に設置し、18.8aの水田に肉用繁殖雌牛の3頭を71日間放牧しました。



立毛放牧実証展示ほ場



飼料用稲利用拡大研修会

(6) 畜産物の放射性物質の検査の実施（平成25年3月末現在）

県では、県産農林水産物の放射性物質検査を行っており、畜産関係では、県内でと畜されるすべての県産牛を対象に検査しているほか、原乳については、県内2か所の集乳場所の原乳を概ね2週間に1回検査をしています。牧草については、県内4地域で1番～3番草までの検査を行いました。いずれも、これまで基準値を超える放射性物質は検出されていません。



牛肉の放射性物質検査



検査用原乳の採取

(7) 青森シャモロックの消費拡大対策

青森シャモロック生産者協会は、社団法人青森県畜産協会と連携し、県内で開催されるイベントで青森シャモロックの千人鍋の提供や精肉などを販売するなど、県内での消費拡大に取り組んでいます。



青森シャモロック汁の提供



青森シャモロックの精肉販売

(8) 短角牛の販路拡大対策

社団法人青森県畜産協会では、日本短角種の魅力を広く消費者に伝え、県内での消費拡大を図るため「あおり短角牛消費拡大普及事業」を実施し、家庭用の調理レシピの開発や地元スーパーでの販促活動、レストランのシェフ等を対象としたPRイベントに取り組んでいます。



家庭で作れる短角牛調理レシピ



地元スーパーでの販促活動